

交流を生かした読書指導： パートナー読書 In2Books の日本における試み

Teaching of reading with pen pal: In2Books in Japan

足 立 幸 子

1. 本稿の目的

読書指導の領域においては、一人でじっくり読む個別読書だけでなく、他者とコミュニケーションをとりながら読む対話的な読書が重視されてきている。筆者は二人組で同じ本を読み、何らかの交流を行う読書活動をパートナー読書と称し、その交流の仕方がどのような結果を生み出すか、交流を通じた読書活動をどのように評価するかを含めて、実践的研究を続けているところである（足立2012a, 足立2012b, 足立2015など）。そのうち、本稿で取り上げる交流は、異なる年齢のパートナーと、同じ本を読んで手紙を交換するというものである。今回扱う実践的研究は、アメリカの都市部で行われていたIn2Books（イン・トゥー・ブックス）というボランティアの大人と小学生の手紙交換のやり方にそって行ったものである。In2Booksを日本の文脈の中で展開させた時に、どのような効果や課題があるのかを明らかにしていくことが本稿の目的である。

In2Booksは1997年にアメリカに設立されたNPOでもあり、そのプロジェクトの名前でもある。2000年代前半には、ワシントンDCを中心に都市部の学校・学級において展開された。2007年以降はデジタル化が測られ、やがてオンライン学習になっていく（足立, 2016）が、本稿でモデルにするのは、2000年代前半の学級単位の取組である。児童が手紙のやりとりをする際に、学級担任の教員が指導を行う。また、児童の書いた手紙自体をその担任が評価する。1年間に5種類のジャンルの本を読んで手紙を書くわけであるが、その中で、そのジャンルの本の読み方や、読んで思考したことの表現の仕方などを、児童は学んでいく。筆者にとってこのやり方が魅力的であるのは、単に自由読書をボランティアに手伝ってもらおうという発想ではなく、本をジャンルごとにしっかり読んで手紙を書くという活動を本格的な授業改善として行っていることである。教員は読書指導や手紙製作指導が十全に行えるように、In2Booksの事務所に、研修に通う。それと関連して、In2Booksの魅力の一つは、手紙を書くということを通して、どのように読書して思考しているかを評価する方法が確立していることである。In2Booksのルーブリックをもとに、5つのジャンルを、1年間を通して、あるいは数年間にわたる実践の場合は複数年度にわたって、担任教師は評価することが可能であり、その評価の仕方も研修で検討される。そのような授業改革としてのIn2Booksを、日本の文脈においても実践・研究したいと考えている。

本研究の実践研究としての最終的な目的は、パートナー読書としてIn2Booksを参考にしながら、小学生が読書に親しみ、思考力をつけ、書く力を伸ばす方法、またその付けた力を評価する方法を開発することである。その中で本稿の目的は、In2Booksの我が国における展開の効果を明らかにすることではない。In2Booksの指導の効果としては、パートナーがいることから本を読む動機付けや、読んで考えたことを表出する機会が提要されるということがある。また、アメリカのSAT-9という標準化されたテストにお

いて、In2Books参加学級の方がIn2Books非参加学級よりも有意に高い成績を収めたことが報告されている(Goldman, 2004)。さらに、1年だけ参加した学級よりも、2年以上参加した学級の方が、より高い成績を収めたということである。しかし、統制群にあたる非参加学級の授業は、我が国と同じではないし、同じような効果があるかどうか分からない。それよりも、筆者が関心を持つのは、我が国においてIn2Booksを実施した際に、どのようなことが起こるのかを発見していくことである。何か問題を発見するかもしれないし、思いがけないことが起こった結果、我々が無意識に前提のように考えていたことに対して、疑う視点を与えてくれるかもしれない。

そこで、本稿での研究課題としては、次の2点を挙げる。

- ① 日本の状況において行うIn2Booksの実践では、どのようなことが可能でありどのようなことが問題になるかを明らかにすること。
- ② 実施においてIn2Booksのループリックを用いての評価が可能であることを明らかにすること。

以下、まず実施の概要を示す。次に実施の経過を示し、最後にどのようなことが可能でありどのようなことが問題になったか、評価が可能であったかを考察する。

2. 実施の概要

実施学校に提出した「研究計画書」をもとに、実施の概要を説明する。

(1) 実施の目的

小学生が読書に親しみ、思考力をつけ、書く力を伸ばす方法、またその付けた力を評価する方法を開発することを研究の目的とする。

(2) 研究方法

アメリカで効果があることが証明されている実践プロジェクトIn2Booksの子どもとボランティアの大人の手紙交換の手法を用いる。教員研修という側面も重視しているので、筆者が年6回校内研修(国語科の授業研)の指導に行っている小学校(1学年1学級の小規模校)で実施する。2～5年生の中で、特に1学級パートナー読書に参加してくれる学級を、学校側が学年や担任の状況を考慮して決定する。その結果、2年生の児童計12名が参加者となった。ボランティアは、大学生7名(大学3～院2年生)で、筆者の研究の意義を理解し、児童に対しては手紙の相手として、児童の手紙を書く意欲や本を読む意欲を引き出すように務めなければならない。一方、大学生7名と筆者は、すべての児童の手紙のパフォーマンス評価していくために、ループリックを検討したり、評価を話し合ったりすることとし、学級担任ではないが教員としての立場も持つこととした。教員研修という点においては、年6回の校内研修の授業検討会で進捗状況を報告する。本の読ませ方及び手紙の書かせ方は、筆者と2年生担任が話し合い、最終的には担任が決定した。

表1 使用した本、当初予定、実際の日程

ジャンル	使用した本	当初予定	手紙作成日
サイクル1 物語	『はじめてのおつかい』筒井頼子, 林明子, 福音館書店	2016年 7月	2016年 7月5日
サイクル2 社会科の本	『あなたのいえ, わたしのいえ』加古里子, 福音館書店	2016年 9月	2016年 10月6日
サイクル3 伝記	『ライト兄弟』鶴見正夫, 徳田秀雄, ひさかたチャイルド 『星のこども—カール・セーガン博士と宇宙のふしぎ—』 ステファニー・ロス・シソン, 山崎直子, 小峰書店	2016年 11月	2016年 11月25日
サイクル4 民話	『ききみずきん』木下順二, 初山滋, 岩波書店 『かにむかし』木下順二, 清水崑, 岩波書店 『ももたろう』松居直, 赤羽末吉, 福音館書店 『ゆきおんな』松谷みよ子, 朝倉撰, ポプラ社	2016年 12月	2017年 2月23日
サイクル5 理科の本	『すごい! びっくり! 昆虫のふしぎパワー』海野和男, 世界文化社 『虫たちのふしぎ』新開孝, 福音館書店	2017年 1月	2017年 3月7日

表2 In2Books における手紙評価のルーブリック (In2Books, 2004, pp.6-7)

評価	1	2	3
本についてのコミュニケーション			
理解	子どもが本を読んだかどうかははっきりとしない。	子どもが本を読んだことのうち詳細については示されているが、主題を理解しているかどうかははっきりとしない。	本についての主題を特定したり説明したりするためにかなり詳細なところをレポートしている。
本についての思考	本とのつながりが見られない。	本との個人的な関係が1種類示されている（例えば、共通なことまたは異なること、意見または評価の表明、学習したことの記述など）。	1種類よりは多くのしかし単純なつながりが示されている（例えば、テキストと自分、テキストとテキスト、テキストと世界）。
ペンパルとのつながり	「○○さんへ」のような冒頭の部分にだけペンパルのことが書かれている。	ペンパルを認めることを示す表現がある（個人的な質問を行ったり個人的な質問に答えたりすること、個人的な情報を伝えること、感謝の意を示すことなど）。	本についてペンパルと直接的にコミュニケーションしている（一般的に本に関すること、読んでの質問・コメント・応答に関することなど）。
言葉や文章構成の使用			
構成	書くことへの意識の流れは見られる。手紙は全般として構成がない。	書いてあることが意味をなし、1つもしくは2つの考えのクラスター（2文かもしくはそれ以上の数の文が一緒に書かれている）が見られる。	いくつかの（2つもしくはそれ以上の）段落らしき考えのまとまりが示されている。全体としては手紙の構成（はじめ、なか、おわり）が出現する。
文	単文かつ／または重文の使用が認められる。全体として繰り返しを感じさせるものとなっている。	主に単文かつ重文の使用が認められる。文の長さや文頭にいくつかのバリエーションが認められる。	単文と重文は大部分は正しいものである。複文が試みられているが、成功していない。
語の選択／語彙	本と親密性のある語は使用されない。	本に由来するいくつかの（3つかそれ以上の）語や句や名前が示されている。	本の考えを表している語彙が使用されている。
表記	単純な綴り・句読点・文法のミスが頻繁にあり、読者にとって読みにくい。	単純な綴り・句読点の問題があるが、正しい文法であることが分かるものである。	単純な綴り・句読点・文法の大部分は正しい。

表2 In2Books における手紙評価のルーブリック (続き) (In2Books, 2004, pp.6-7)

評価	4	5	6
本についてのコミュニケーション			
理解	本のテーマと(または)ジャンルについて何か主題につながるものを示している。	より深く理解している証拠がある。主題とテーマが入念に詳細につながる形で示されている。ジャンルが反映されているかもしれない。	手紙は、主題・テーマ・意味のある詳細についての議論をよく発達させた思慮深いものとなっている。ジャンルについての深い熟考と全般的な読みを示している。
本についての思考	本の主題やテーマについて関連して、つながり(テキストと自分、テキストとテキスト、テキストと世界)が示されている。	詳細を含んだ入念な本の主題やテーマについて、つながり(テキストと自分、テキストとテキスト、テキストと世界)が示されている。	手紙は、本の主題やテーマへの幅広く深いつながり(テキストと自分、テキストとテキスト、テキストと世界)を理解していることを示している。
ペンパルとのつながり	主題やテーマに関連する2つ以上の質問・コメント・応答を含んで、ペンパルと本についてコミュニケーションしている。	本の主題やテーマに関連して詳細で考え深いコミュニケーションが手紙の一部に示されている。	手紙全体を通して、本やテーマをめぐる個人的な対話が示されている。個々の本を超えて読者との関係についての謝意が示されているかもしれない。
言葉や文章構成の使用			
構成	段落が常に組織化されている。主に同じ話題についての文が集まっている。全体として手紙の構造は明白である。	段落は段落の話題に焦点を当てた情報によって構成されているが、まだ限られている。段落間のつながりをつけようとしている証拠が見られる。手紙は始めから終わりまでが構成されている。	段落は詳しくよく発達している。段落間の流れも言語の流れとして自然である。テキスト全体が効果的に構成されている。
文	単文と重文は大部分は正しいものである。いくつかの成功した複文が見られる。	正しい単文・重文・複文の例が多い。手紙の中に異なる文構造の使用が加わってくる。	単文・重文・複文をほとんど間違わずに使用する。読者の興味や効果にそって文構造を変化させたり繰り返したりするかもしれない。
語の選択/語彙	本の主題・テーマ・ジャンルなどに関連した語彙・語句が使用されている。	本に関係する抽象的な考えやテーマやジャンルを議論するために語彙を拡張している。	手紙に現れた語彙は、本やそれに関するテーマ及びジャンルの語彙を制御して使用されることが分かる。語は作者への理解を読者が構築するために選択されている。
表記	大部分は正しい。いくつか(3つかそれ以上の)の部分でより複雑な綴りや複雑な句読法を試みている。	文法、複雑な綴り、複雑な句読点についても誤りはほとんどない。	誤りはなく、手紙の書き手が、より複雑な綴りパターンや、句読法や、文法を運用できることが示されている。

(3) 実施日程

手紙を書く順番はまず小学生が書き、それに対して大学生が返事を書くという形で進められる。サイクル1「物語」、サイクル2「社会科の本」、サイクル3「伝記」、サイクル4「民話」、サイクル5「理科の本」の順で、2～1ヶ月に1回ずつ手紙の交換を行う予定をたてた(表1)。しかし、実際は遅れがちになった。手紙作成日は、小学生が書いた日である。ただし、サイクル1の物語を読む前に、まず大学生の方からパートナーの小学生へ自己紹介の手紙を書いた。自己紹介の手紙には写真を添えた。また、サイクル5の大学生の返事の後、当初の予定にはなかったが、小学生自身が希望し、大学生の返事に対する返事を書いた。

(4) 手紙の評価

In2Booksのループリックを訳したものを表2として示す。このループリックは、1～6点までがある。各学年の目安を表3に示す。2年生であれば1～3点が中心になることが分かる。各サイクルにおいて、このループリックをどのように解釈し評価していったかを次節「実施の経過」で示す。

表3 学年別の目安となるループリックの得点

学 年	目安となるループリックの得点					
2年生	1	2	3			
3年生		2	3	4		
4年生			3	4	5	
5年生				4	5	6

3. 実施の経過

(1) サイクル1に入る前

5つのジャンルの本を読む前に、まず、大学生がパートナーの小学生に向けて手紙を書いた。手紙には、相手児童の名前を入れた呼びかけ、自己紹介、この手紙交流を楽しみにしていることを入れ、写真を付した。表4に手紙例のテキスト部分(写真以外のところ)を示す。

表4 サイクル1に入る前の大学生の自己紹介文

〇〇〇〇さんへ
 はじめまして。わたしの名まえは□□□□です。
 これから、〇〇さんとおてがみのこうかんをするときいて、とてもわくわくしています。はじめに読む本は「はじめてのおつかい」という本なんだって！ どんなお話だか気になるね。〇〇さんからのおてがみをとても楽しみにまっています。
 ここで、わたしのことをすこし、しょうかいするね。
 わたしの好きな食べものは、からあげです。あと、ブロッコリーもすきだよ。すきな色はみどりです。すきなどうぶつはパンダです。おり紙でパンダをつくってみたよ。どうかな？
 〇〇さんのこともいろいろしりたいのでおてがみに本のことと、〇〇さんのしょうかいを書いてね。おへんじをまっています！
 □□□□より

(2) サイクル1 物語

①本と指導

サイクル1 物語の本として、『はじめてのおつかい』(筒井頼子作、林明子絵、福音館書店刊)を選択した。この物語は、幼稚園生ぐらいのまいちゃんが、母親に言われて牛乳を買いに行くおつかいをするという物語である。詳細で丁寧に描かれた絵のサポートもあり、登場人物の心情を把握しやすく、物語の展開が明瞭であるところが本研究に適していると判断した。

学級担任は、表5のように2時間扱いで授業を行った。

表5 サイクル1物語の指導（学級担任の報告より）

サイクル1の授業

2年生の子どもたちは、お兄さん・お姉さんからのお手紙を、目を輝かせて何度も何度も読んでいました。そして、『はじめてのおつかい』を読んで、一生懸命お返事を書きました。

授業は以下のような流れで進めました。

1時間目

- ①パートナー読書の説明
- ②いただいた手紙の配付、開封
- ③手紙をじっくりと読む（友だちと見せ合いをしていました。）
- ④『はじめてのおつかい』読み聞かせ
- ⑤手紙の書き方（型）指導
- ⑥『はじめてのおつかい』を見ながら返事の下書きを書く
- ⑦顔写真を撮る

2時間目

- ①下書きを完成させ、担任のチェックを受けて直しをする
- ②清書、色塗り、封筒作り→完成

今回は1回目だったので、お返事を書くときに、担任の方で以下の①～⑤のような型を示して書かせました。そして、添削をして直しをさせてから清書しました。

手紙の書き方

- ①□□さんへ
- ②「お手紙ありがとうございました。」
- ③手紙を読んだ感想や、質問への答え、別の質問
- ④『はじめてのおつかい』を読んだ感想
- ⑤日付、〇〇より

今回は担任が型を指定しましたが、2回目以降は、上記の型を掲示しておき、支援が必要な場合にだけ型を使って指導し、そうでなければ子どもたちに自由に書かせて（誤字脱字のみを点検して）みようと思うのですが、いかがでしょうか。

また、便せんとして使った用紙（A4サイズで絵が描けるものと文字だけのもの、2種類用意しました）は適切でしたでしょうか。ご指導よろしくお願いいたします。

平成28年7月5日 ○○小学校 2年生担任 ××××

②児童の手紙とその評価

表4の手紙を受け取り、サイクル1物語の本の読み聞かせを経て書いた児童の手紙を表6に示す。また、表6に対して大学生が書いた返事の例を表7に示す。

表6 サイクル1物語 児童の手紙

□□□□さんへ
 お手紙ありがとうございます。
 わたしの好きなたべものは、オクラです。
 好きな色は、水色、うすむらさきです。
 お手紙をよんだらうれしかったです。
 「はじめてのおつかい」を読んで、みーちゃんがころんだところがかawaiiそうだなーとおもいました。
 □□さんも読んでみてください。
 7月5日 ○〇より

表7 サイクル1物語 大学生の返事

〇〇〇〇さんへ
 お手紙ありがとう。
 きれいに色がぬられていてとてもうれしかったです。〇〇さんが書いてくれたみいちゃんの絵が上手でびっくりしました。
 わたしも「はじめてのおつかい」を読んでみました。〇〇さんがおもったように、わたしもさかでころんでしまったみいちゃんがかawaiiそうだなとおもいました。
 みいちゃんはおみせの前で「ぎゅうにゅう ください」といったのに、なかなかきがついてもらえなくてかわいそうでした。でも、さいごにはぎゅうにゅうをかうことができて、わたしはよかったと思いました。
 「はじめてのおつかい」はとてもおもしろかったですね。つぎはまたちがう本を読みたいって！ 〇〇さんのお手紙をたのしみにまっています。
 7月11日 □□□□より

手紙の評価は、表2で示したIn2Booksのループリックを用いて、筆者とこの実践に参加している大学生・大学院生計7名で行った。自分が手紙の返事を書くパートナーであるかどうかに関わらず、全員で合議しながら評価を行った。

まず行わなければならなかったことは、In2Booksのループリックを手紙に合わせて解釈するということがあった。手紙には「おもしろかったところ」が書かれていることが多い。これを、ループリック《本についてのコミュニケーション》の〈理解〉2点の「子どもが本を読んだことのうち詳細については示されているが、主題を理解しているかどうかははっきりとしない」ことの現れであると判断することにした。また、問題になったのが、《言葉や文章構成の使用》で〈文〉の欄である。手紙で複数の文が書かれていれば〈文〉2点、指示語があれば複数の文もしくは考えの単位をつなごうとしているととらえ〈文〉3点とすることにした。G児はさらに接続語まで用いて複数の文をつないでいるので、これは〈文〉4点とすることにした。〈語の選択／語彙〉は2点が「本に由来するいくつかの（3つかそれ以上の）語や句や名前が示されている」ということなので、3つ以上の語が含まれていれば2点としたが、〈語の選択／語彙〉3点の「本の考えを表している語彙が使用されている。」がどのような語彙であるか、はっきりとした評価は判断できなかった。ただ、J児が「みいちゃんがうたをうたいながらあるいと、じてんしゃがすごいはやさでとおりすぎ、みいちゃんのかべにすりつきました。」と述べている「すりつきました」は優れた語であるととらえ、J児のみ3点とし、他の児童は2点とし、継続審議していくことにした。そのようにして行った評価を表8に示す。

表8 サイクル1物語の手紙の評価

児童	理解	本についての思考	ペンパルとのつながり	構成	文	語の選択 語彙	表記	平均
A児	2	2	3	3	3	2	3	2.57
B児	2	3	3	3	2	2	3	2.57
C児	2	2	2	2	2	2	3	2.14
D児	2	2	3	2	2	2	3	2.29
E児	2	2	3	2	2	2	2	2.14
F児	2	2	3	3	2	2	2	2.29
G児	2	3	3	2	2	2	4	2.57
H児	2	2	3	3	3	2	2	2.43
I児	2	2	2	3	2	2	2	2.14
J児	2	2	2	3	2	3	2	2.29
K児	2	2	2	3	2	2	3	2.29
L児	2	2	2	3	2	2	2	2.14
平均	2.00	2.17	2.58	2.67	2.17	2.08	2.58	2.32

(3) サイクル2社会科の本

①本と指導

日本では、小学校2年生で社会科という教科がないため、どのような本の選択が難しかった。身の周りの生活に関係することで、社会生活につながっていくものと考え、加古里子『あなたのいえ わたしのいえ』を選択した。この本は「家」がどのような考え方で成立してきたかを簡潔に示したものである。

指導を学級担任にしてもらうに際しては、サイクル1の評価の検討で問題になった「主題」ということを伝えた。すなわち、「おもしろかったところ」というと児童は些末な点を取り上げて手紙に書くが、この本の主題（「家という概念」「家の成り立ち」のあたるこの本の最も重要なところ）を押さえてもらうように依頼した。その結果、担任は4時間を割いて、表9のような指導を行った。

表9 サイクル2社会科の本の指導（学級担任の報告より）

サイクル2の授業

1時間目

- ①パートナー読書の説明（前回から期間が空いたため、再度）
- ②『あなたのいえ わたしのいえ』
- ③手紙の書き方の指導、主題の指導
- ④サイクル1の手紙の返却（手紙の中に質問があったら、その返答を手紙に入れるため。）
- ⑤大学生の手紙と『あなたのいえ わたしのいえ』を見ながら返事の下書きを作成

2時間目

- ⑤の続き、下書きの完成

3・4時間目

- ⑥ペアでの添削・推敲
- ⑦清書、色塗り、封筒作り→完成

主題

「この本で一番大切なことは何だと思ったか、書きましょう。本の中に書いてあることでもいいし、書いていないことでもいいです。」

ペアでの添削・推敲

下書きを読み合って、誤字脱字やおかしい言葉遣いが無いかどうか確認

ポイント ①手紙の書き方の①～⑦が書いてあるか。

②間違っている字や言葉がないか。（「は」「を」「へ」、濁点、句読点等）

③分かりにくいところはないか。

サイクル2の手紙の型

手紙の書き方（下線部は初めて指導）

①○○さんへ

②はじめのあいさつ

「お手紙ありがとうございました。」「おひさしぶりです。」など

③手紙を読んだ感想や、質問への答え、別の質問

④『あなたのいえ わたしのいえ』の本で大切だと思うのは、です。

⑤『あなたのいえ わたしのいえ』を読んだ感想

⑥まとめのことは

「○○も読んでみてください。」「お返事楽しみにしています。」など

⑦○月○日、○○より

②児童の手紙とその評価

児童の手紙例を表10に示す。また、それに対する大学生の返事例を表11として示す。

表10 サイクル2社会科の本 児童の手紙

□□□□さんへ
 お手紙ありがとうございました。
 おひさしぶりですね!元気ですか!
 お手紙をんで(ママ)うれしかったです。□□さんのお家は、2かいだてですかそれとも1かいだてですか。
 『あなたのいえわたしのいえ』でたいせつだと思ったのは、ドアと、ゆかと、まどと、やねと、かべのぜんぶだと思いました。□□さんは、どう思いましたか。おもしろかったところは、18頁と19頁のお月さまと、男の人と犬です。ぜひよんでみてくださいおへんじたのしみにしています!
 10月6日 ○○より

表11 サイクル2社会科の本 大学生の返事

○○○○さんへ
 お手紙ありがとう。わたしは毎日元気に学校へ行っています。○○さんも元気にすごしていますか?
 ○○さんからお手紙を読んでとても楽しい気持ちになりました。
 わたしのお家は2かいだてです。外には犬小屋もあります。かべの色はオレンジです。
 わたしも『あなたのいえわたしのいえ』を読んでみました。大切だと思うのは、いえがいろんなくふうがあってつくられているということです。やねやかべやまどはとても大切なんですね。○○さんがおもしろかったと言っていた18頁と19頁のお月さまと男の人と犬をわたしも見てみました。男の人と犬はわらっているのにお月さまはこまったかおをしていて、おもしろいなと思いました。あと、22頁のお家の絵を見てとても楽しい気持ちになりました。
 つぎはどんな絵本を読むのか楽しみです。また、○○さんからのすてきなお手紙がくることをわくわくしながらまっています。
 外がさむくなってきたのでかぜには気をつけてくださいね。
 おへんじたのしみにしています。
 10月17日
 □□□□より
 吹き出し ○○さんはどんなお家にすんでるの?

サイクル2社会科の本の手紙は、主題を学級担任が「大切なことは」として書くように指導していたので、このことに関して記述されている多くの児童が《本についてのコミュニケーション》〈理解〉は「家が大切である」「家には工夫がある」ことを述べている場合には、3点となった。〈本についての思考〉の3点は、「1種類よりは多くのしかし単純なつながりが示されている(例えば、テキストと自分、テキストとテキスト、テキストと世界)。」となっているが、「はく／わたしが住んでいる家は……。」と自分の家を引き合いに出しながら考えている場合や、「わたしだったら……。」と自分のことに照らしあわせて述べているものを3点とすることにした。〈ペンパルとのつながり〉は、「△△さんも読んでください。」のように、パートナーの名前が入っている場合に3点とすることにした。《言葉や文章構成の使用》については、〈構成〉の3点「いくつかの(2つもしくはそれ以上の)段落らしき考えのまとまりが示されている。全体としては手紙の構成(はじめ、なか、おわり)が出現し、形式段落が1つ以上ある」については、学級担任の指導によって「型」が与えられたため、多くの児童が3点となった。〈文〉については、In2Booksは英語で書かれた文をもとにループリックを書いているが、日本語の場合助詞(てにをは)のミスの取り扱いが問題となるということがわかり、ミスがあった場合には2点とすることにした。サイクル2での評価活動の一番大きな成果は、〈語の選択／語彙〉の3点「本の考えを表している語彙が使用されている。」で言うところ語彙として何を判断すればよいか明らかにしたところである。〈理解〉で見たように、この本の主題が「家が大切である」「家には工夫がある」ということなので、「家」「ドア」「かべ」「台所」などについての語彙が書かれている場合には〈語の選択／語彙〉は3点とし、それにあてはまらない語で「本に由来する」語(たとえばネコなど)を挙げて

いる場合には2点とした。〈表記〉については、サイクル1でおおまかな方針が出ていたが、サイクル2で改めて、〈表記〉1点は大部分は正しいが3箇所以上の感じもしくは表記の誤りがある場合、〈表記〉2点は漢字もしくは表記の誤りが1箇所か2箇所ある場合、〈表記〉3点は漢字もしくは表記の誤りはない場合と整理した。そのようにして評価した結果を表12に示す。

表12 サイクル2社会科の本の手紙の評価

児童	理解	本についての思考	ペンパルとのつながり	構成	文	語の選択語彙	表記	平均
A児	2	2	3	3	2	3	2	2.43
B児	3	2	3	3	2	3	3	2.71
C児	3	2	2	2	2	3	3	2.43
D児	3	2	2	3	3	3	3	2.71
E児	2	2	3	3	3	3	3	2.71
F児	3	3	3	3	2	3	4	3.00
G児	3	2	3	3	4	3	1	2.71
H児	3	2	3	2	4	3	2	2.71
I児	3	2	2	2	2	3	2	2.29
J児	3	2	3	3	2	4	2	2.71
K児	3	2	3	3	4	4	2	3.00
L児	2	2	2	2	3	3	2	2.29
平均	2.75	2.08	2.67	2.67	2.75	3.17	2.42	2.64

(4) サイクル3伝記

①本と指導

日本の現行の学習指導要領（平成20年告示）では、「C読むこと」の言語活動例として、第5学年年及び第6学年に「A伝記を読む、自分の生き方について考えること。」がある。このため、小学校高学年で読むような伝記はとても充実している。しかし、小学校2年生で読めるような伝記はなかなか見当たらなかった。考えてみればIn2Booksが行われているアメリカは、多文化社会であるという背景があったり、英雄を賞賛する文化があったり、アメリカという国の成り立ちにかかわる英雄の小学校低学年から読めるような絵本の伝記が数多く出版されている。しかし、日本の絵本ではなかなか適したものが見つからなかった。複数の市立図書館をめぐり、司書にも相談して、『ライト兄弟』と『星のこども—カール・セーガン博士と宇宙のふしぎ—』を選択した。『ライト兄弟』は、飛行機を作った人の伝記であるので、長文ではあるが分かりやすいと考えた。一方『星のこども』に書かれている内容は宇宙に関することで、児童にとって分かりにくいと考えた。以上のことを学級担任に伝え、どちらの本を選んでもらうことにしたが、実際には学級担任は両方を読み聞かせし、好きな方1冊について手紙を書くように児童に選ばせた。児童は絵がかわいらしいということもあって、多くが『星のこども』の方を選択した。

指導については、伝記一般の指導としてアメリカでよく行われていることとして、その偉人の業績、偉人の子どもの時代にあったことや偉人の子どもの時代の性質、大人になってからの生活、乗り越えた障害などをとらえさせることが多いということを伝えた。学級担任が児童に示したサイクル3の手紙の型を表13に示す。担任は、先に筆者が伝えたことのうち、業績を「⑥☆☆☆は、□□□□をした人です。」、子ども時代にあったことを「⑦☆☆☆は、子どものときに△△△△をしてすごしていました。」として書かせるように指導した。

表13 サイクル3伝記の指導（学級担任の報告より）

サイクル3の手紙の型
<p style="text-align: center;">手紙の書き方</p> <p>①○○さんへ</p> <p>②はじめのあいさつ</p> <p>③手紙を読んだかんそう、しつもん^{こた}の答え、べつのしつもん</p> <p>④わたしは、ぼくは、『○○』^{だいめ}の本について書きます。</p> <p>⑤この本は、☆☆☆^{だれ}のことを書いた本です。</p> <p>⑥☆☆☆^{だれ}は、□□□□^{どんなすごいこと}をした人です。</p> <p>⑦☆☆☆^{だれ}は、子どものときに△△△△^{どんなこと}をしてすごしていました。</p> <p>⑧本について（3文いじょう）</p> <p>⑨まとめのことば</p> <p>⑩○月○日 ○○より</p>

②児童の手紙とその評価

児童の手紙例を表14に示す。また、それに対する大学生の返事例を表15として示す。

表14 サイクル3伝記 児童の手紙

<p>□□□□さんへ</p> <p>お手紙ありがとうございます。「○○さんは、どんなお家にすんでいるんですか？」と聞いてくれましたよね！ ○○は、アパートに、すんでいます！でも…おばあちゃんちにいることが多いです！おばあちゃんのお家に犬がいます！お家には、△△といううさぎがいます。○○は元気にすごしていますが□□さんは元気にすごしていますか！</p> <p>わたしは、『星のこども』について書きます。カール・セーガンはかせのことを、書いた本です！はかせは、子どものころ、星をしらべていてすごいと思いました！4頁のちきゅうがちいさくてびっくりしました！ぜひ読んでみてください！</p> <p>お手紙たのしみにしています！</p> <p>○○より 11月25日</p>

表15 サイクル3伝記 大学生の返事

〇〇〇〇さんへ

お手紙ありがとうございます。かわいい動物たちの絵が書（ママ）かれていて、とてもうれしい気持ちになりました。ありがとう！

〇〇さんはアパートにすんでいるんですね。〇〇さんのおばあちゃんのお家に犬がいるとのことですが、じつはわたしのお家にも犬がいます。犬とてもかわいいですね。うさぎはかったことがないので〇〇さんがとてもうらやましいです。

〇〇さんが元気そうでよかったです。この間雪がふってとてもさむくなってきたのであたたかくしてねてくださいね。わたしは毎日元気なのであんしんしてください。

〇〇さんは『星のこども』を読んだんだね。わたしも読んでみました。カール・セーガン^{はかせ}博士について書いてある本でしたね。〇〇さんが言っていたように、カールは子どものころから星についてしらべていたのですね。大人^{おとな}になってからもカールはうちゅうをしらべて、地球^{ちきゅう}とすべての生き物は星のかけらでつくられていることをはっけんしたすごい人だと思いました。4ページの地球の絵をわたしも見ました。あんなに小さいとおどろきですね。うちゅうはとてもひろいんだと思いました。『星のこども』のように、ある人のことを本にしたものを伝記^{でんき}とよぶそうです。今までに伝記は読んだことあったかな？ 次^{つぎ}に読む本はむかしばなしだった！ ももたろうとかうらしまたろうとかかな？ わたしもまだ読んだことないから、どんな本かたのしみですね。

〇〇さんのお手紙をたのしみにまっています。

12月12日

□□□□より

サンタクロースの絵と吹き出し

クリスマスプレゼントはなにをもらうの？？

サイクル3伝記の手紙を評価する際も、《本についてのコミュニケーション》〈理解〉3点に書かれている「本についての主題」が何になるかということが議論された。これは、担任の指導を踏まえ、人名・業績・子どもの頃^{ころ}のことが書かれているかどうかで判断することにした。すなわち、1点が「人名・業績・子どもの頃^{ころ}のことのいずれも書いていない」、2点が「人名・業績・子どもの頃^{ころ}のことのうち1つを書いている」、3点が「人名・業績・子どもの頃^{ころ}のうちの2つを書いている」とした。〈本についての思考〉の2点は「おもしろかったです。」というような内容、3点は「自分も～してみたいです。」とした。〈ペンパルとのつながり〉については、サイクル2に引き続き「〇〇さんも読んでみてください。」のようにパートナーに対する呼びかけなどがある場合を3点とした。《言葉や文章構成の使用》の〈構成〉〈文〉〈表記〉の基準はサイクル2と同じとした。〈語の選択／語彙〉3点の「本の考えを表している語彙」とは、『ライト兄弟』の場合は「兄弟」「飛行機」「嵐」とし、『星のこども』の場合は「探査機」「地球」「宇宙」「勉強」「立派な大人」とした。評価した結果を表16に示す。

表16 サイクル3伝記の手紙の評価

児童	理解	本についての思考	ペンパルとのつながり	構成	文	語の選択語彙	表記	平均
A児	4	2	3	3	2	3	2	2.71
B児	4	2	3	3	2	3	3	2.86
C児	4	2	2	2	2	3	3	2.57
D児	4	2	2	3	3	3	3	2.86
E児	2	2	3	3	3	3	3	2.71
F児	4	3	3	3	2	3	4	3.14
G児	4	2	3	3	4	3	1	2.86
H児	4	2	3	2	4	3	2	2.86
I児	3	2	2	2	2	3	2	2.29
J児	4	2	3	3	2	4	2	2.86
K児	4	2	3	3	4	4	2	3.14
L児	1	2	2	2	3	3	2	2.14
平均	3.50	2.08	2.67	2.67	2.75	3.17	2.42	2.75

(5) サイクル4民話

①本と指導

民話（昔話）は、現行の学習指導要領の「伝統的な言語文化に関する事項」として、第1学年及び第2学年で「(ア) 昔話や神話・伝承などの本や文章の読み聞かせを聞いたり、発表し合ったりすること。」があるので、昔話の本は多く所蔵している。そこで、『ききみみずきん』『かにむかし』『ももたろう』『ゆきおんな』の4冊を提案し、そこから選択してもらうことにした。学級担任は、校長とともに4冊を読み聞かせした上で、1冊を児童に選択させて手紙に書かせた。担任の報告を表17に示す。

表17 サイクル4民話の指導（学級担任の報告より）

<p>サイクル4の授業</p> <p>（前略）</p> <p>授業は、以下のような流れで進めました。</p> <p>1時間目</p> <p>①昔話の本4冊を読み聞かせ</p> <p>②昔話の本4冊をじっくりと個人で読み、一番気に入った本を一冊選ぶ</p> <ul style="list-style-type: none"> 昔風の言葉遣いや言い回しが多く、子どもたちがどの程度理解できた分かりませんが、子どもたちが「どういうこと？」と質問してきた場合のみ、解説をし、あとは流して読み聞かせをしました。昔風の言葉遣いについては、子どもたちは「昔話だからそういうものだ」というように自然に受け入れて読んでいた様子でした。 <p>2時間目</p> <p>③型（別紙）を提示し、下書きを書く</p> <ul style="list-style-type: none"> 形式段落をつけさせるために、下書きでは「①～⑩が行の頭にくるように改行する」と指導しました。前回までは、「①～⑩の全部を書いてね。」と繰り返し声掛けをしても、もれなくすべてを書くことができていない児童が多くなっていました。今回は、下書きを書くときに①～⑩の番号も書くやり方にしたところ、ほとんどの児童がもれなく書くことができました。 型⑦「いちばんもりあがるところ」が一番苦労するだろうと予想していましたが、子どもたちは自分なりにすらすらと書くことができていました。⑤の「いつ、どこ」と⑧の「自分が考えたこと」が一番迷っている子が多かったです。
--

- ・自分が言いたい場面を説明する時に「〇ページの…」と書かせようと思ったのですが、どの本にもページ数が書かれていないことに後から気づき、「〇〇が～～をしているところ」というように場面の様子を言葉で説明するように指導しました。

3時間目～4時間目

④下書き完成、担任チェック

- ・ペアで下書きを読み合う活動はせず、担任が誤字脱字やおかしい言葉遣いが無いかどうかを確認しました。

⑤清書、色塗り、封筒作り→完成

今回も子どもたちは短時間の中で楽しんで活動に取り組んでいました。「次の5回目で最後だよ。」と伝えると、みんな残念そうな顔をしていました。

発送が遅くなってしまう、大変申し訳ありません。ご指導よろしく願いいたします。

平成29年2月24日 〇〇小学校 2年生担任 ××××

サイクル4の手紙の型

手紙の書き方

- ①〇〇さんへ
- ②はじめのあいさつ
- ③手紙を読んだかんそう、しつもん^{こた}の答え、べつのしつもん
- ④わたしは、ぼくは、『本のだい名』について書きます。
- ⑤いつ・どこ
このお話は、(いつ)、(どこ)であったお話です。
- ⑥とうじょうじんぶつ
このお話には、(だれ)と(だれ)が出てきます。
- ⑦いちばんもりあがるところ・りゆう
いちばんもりあがるところは、～～のところですよ。
りゆうは、～～だからです。
- ⑧自分が考えたこと(3文いじょう)
- ⑨まとめのことば
- ⑩〇月〇日 〇〇より
☆話がかわる時は、だんらくをかえる。

②児童の手紙とその評価

児童の手紙例を表18に示す。また、それに対する大学生の返事例を表19として示す。

表18 サイクル4民話 児童の手紙

うさぎの絵と吹き出し お元気ですか!!

□□さんへ

お元気ですか？

前のお手紙で、サンタさんから、プレゼントに何をもらったか聞いてくれましたね。わたしは、しるばにあのお家としるばにあのねこのおかあさんをもらいました。

わたしは、『かにむかし』について書きます。

このお話は、むかしのはまの近くのお話しです。

とうじょうじんぶつはかにとさるとばんばんぐりとはちとうしのふんとはぜぼうです。

一ばんもり上がるころは、一ばんさいごの頁です。どうしてかと言うとさるの顔がおもしろかったからです。

わたしがどうしてもかにむかしにしたかという、おもしろそうだったからです。

かにのおかあさんがかわいそうでした。さるがはちにさされたところがおもしろかったです。

かぜをひかないように気をつけてください。

〇〇より 2月24日金曜日

表19 サイクル4民話 大学生の返事

〇〇〇〇さんへ

お手紙ありがとう。わたしはかぜもひかずに毎日元気にすごしています。お手紙をやりとりするのはクリスマスぶりなのでとてもうれしいです。

クリスマスにはシルバニアのお家とねこのお母さんをもらったんですね。わたしもちいさい時にシルバニアを買ってもらいました。今でも大切にもっていますよ。

〇〇さんは「かにむかし」を読んだのですね。わたしも読んでみました。いちばんもりあがるところは〇〇さんと同じように、みんなできょうりよくしてさるをやっつけるところだなと思いました。わるいさるをこらしめることができてよかったなと思いました。はちにさされたときのさるのかおはおもしろかったですね。

次は科学の本を読むみたいです。少しその本をみたのですが、虫についてたくさん書かれていました。〇〇さんも読んでみて、ぜひどう思ったのか、どこが面白かったか、おしえてくださいね。次はさいごのお手紙なので、とてもたのしみにしています。

2年生ものこり少しですね。3年生にむけてまたがんばってね。

2月28日 □□□□より

サイクル4の民話（昔話）を読む時の指導は、サイクル1物語に準ずるが、教訓が強調されるというのが物語と異なるというのが、In2Booksのとらえ方である。ループリックの評価については、次のように基準を設けた。《本についてのコミュニケーション》の〈理解〉については、1点が「設定（時・場・人物）が読み取れていない」、2点が「設定のうち、人物について書いている。しかし、クライマックスをとらえていない」、3点が「設定（時・場・人物）のうち、人物について書いている。クライマックスを、理由を含めてとらえている」、4点を「クライマックスについて詳しく、うまくまとめている」とした。〈本についての思考〉については、1点が「自分が考えたことを書いていない」、2点が「自分が考えたことを書いている」、3点が「自分が考えたことを教訓とからめて書いている」、4点が「自分は、このきょうくんについてこう思います」ということがあるとよしとした。〈ペンパルとのつながり〉については、1点が「宛先と差出人の名のみ書いている」、3点が「〇〇さんも読んでみてください」と書いているとした。《言葉や文章構成の使用》については、〈構成〉は2点が「クラスターはあるが、改行ができていない」、3点が「形式段落が1つ以上あり、改行ができていない（1字下げはなくても可）」、4点が「形式段落が2つ以上ある。同じ話題のまとまり、意味上のまとまり（意味段落）を作っている」とした。〈文〉については2点が「ねじれのミスが複数ある」、3点が「考えをつなぐ指示語が1箇所以上ある」とした。〈語の選択／語彙〉については2点の語彙を「人物の名前」「きびだんご」「ききみみずきん」「うす」「かき」などとし、3点の語彙を「おにたいじ」「こらしめる」「石」「せきとめる」「水」「クスノキ」「やくそく」「おわかれ」「わるいこと」、4点を「まじめ」「努力」「人のため」とした。〈表記〉については、1点が「間違いが3箇所以上」、2点が「句読点・漢字の間違いが1～2箇所ある」、3点が「句読点・漢字の間違いがない」、4点が「学年に出てこない難しい漢字を使用している（例：頁など）」とした。児童の手紙も高度になってきたということもあり、評価する側（筆者・大学生・院生）も評価になれてきたということで、4点にまで具体的な基準を設定する項目が増えた。

このようにして評価した結果を表20に表す。

表20 サイクル4 民話の手紙の評価

児童	理解	本についての 思考	ペンパルと のつながり	構成	文	語の選択 語彙	表記	平均
A児	3	3	3	4	4	4	2	3.29
B児	2	2	3	3	4	2	3	2.71
C児	2	2	3	3	3	2	2	2.43
D児	4	3	3	4	3	2	2	3.00
E児	3	1	3	3	3	3	2	2.57
F児	3	2	2	3	2	3	3	2.57
G児	4	3	2	3	2	3	1	2.57
H児	2	2	3	2	2	2	2	2.14
I児	3	2	3	3	2	3	3	2.71
J児	3	2	3	2	3	2	2	2.43
K児	3	3	3	3	3	3	2	2.86
L児	2	2	3	3	3	2	3	2.57
平均	2.83	2.25	2.83	3.00	2.83	2.58	2.25	2.65

(6) サイクル5 理科の本

①本と指導

理科の本の中で、まず小学校低学年に向いているのは、物理・科学・生物・地学のうち生物であると考え、昆虫の本『すごい！びっくり！昆虫のふしぎパワー』と『虫たちのふしぎ』の2冊を選択した。2冊とも、論理的な文章が書かれている本というよりも、昆虫の写真が数多く掲載されている図鑑的な扱いの本である。

学級担任の指導についての報告を表21に載せる。このような知識を伝えるタイプの本については、まずは知識を得る喜び、発見の面白さを綴ってほしいと考える。学級担任の手紙の型では、④と⑤で気に入った虫を1つ取り上げ、その気に入った理由を書かせるということにしたようである。また、⑦新たに知ったことについても書くように指導した。

表21 サイクル5理科の本の指導（学級担任の報告より）

<p>サイクル5の授業</p> <p>1時間目</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ サイクル4のお返事を読む。 ・ サイクル4の「昔話」の本をもう一度読みたい人は、本を読み返す。 ・ サイクル5（の2冊）の本を紹介し、読み聞かせをする。 <p>2時間目</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 2冊の本をじっくりと読み、一番気に入った本を選ぶ。 ・ 型を提示し、下書きを書く。 <p>3時間目～4時間目</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 下書き完成、担任チェック。 ・ 清書、色塗り、封筒作り→完成。 <p>サイクル5の手紙の型</p> <p>① ○○さんへ</p> <p>②はじめのあいさつ</p> <p>③手紙を読んだかんそう、しつもの答え、べつのしつもん</p> <p>④ぼくが、わたしが、一番気に入った虫をしょうかいします。</p> <p>⑤『本のだい名』○ページの、☆☆☆という虫です。りゆうは…です。</p> <p>⑥今までの本と今回の本のちがうところは、～～～だと思いました。</p> <p>⑦この他に書きたいこと</p> <p>自分が新しく知ったことや考えたこと、気づいたことなど</p> <p>⑧パートナー読書のふりかえり</p> <p>成長したこと、うれしかったこと、楽しかったことなど</p> <p>⑨まとめのことば</p> <p>⑩○月○日 ○○より</p> <p>☆話がかわる時は、だんらくをかえる。</p> <p>☆虫の説明をするときは、本のだい名とページを書くと分かりやすい。</p>

②児童の手紙とその評価

児童の手紙例を表22に示す。また、それに対する大学生の返事例を表23として示す。

表22 サイクル5理科の本 児童の手紙

<p>絵 だんご虫が丸まったところ！</p> <p>□□さんへ</p> <p>お手紙ありがとうございます。</p> <p>お手紙のさるの絵がじょうずでした。</p> <p>一番気に入った虫を一つしょうかいします。それはダンゴ虫です。</p> <p>『虫たちのふしぎ』の35頁のダンゴ虫です。りゆうは、丸まると小さくてかわいいからです。</p> <p>今までの本でちがうと思ったところは、虫がかいてあるところです。</p> <p>ダンゴ虫のほかにはいも虫がかわいいと思いました。</p> <p>さいしょからやって、一番おもしろかった本は、『あなたの家わたしの家』です。</p> <p>今までありがとうございました。</p> <p>3月7日 ○○より</p>

表23 サイクル5理科の本 大学生の返事

〇〇〇〇さんへ

お手紙ありがとうございます。〇〇さんに絵をほめられてとってもうれしいです。ありがとう。

〇〇さんはダンゴ虫が気に入ったんですね。わたしも35頁を見てみました。〇〇さんが言うように、小さく丸まっていたかわいらしいですね。わたしは小さいとき、よく外であそんでいて、何度もダンゴ虫を見ていました。見つけると、手の上にのせてゆびでつついて丸くさせていました。〇〇さんも、もしダンゴ虫を見つけたら、じっさいにさわって、丸くなるところを見てみてください。きっとおもしろいはずですよ。

わたしが『虫たちのふしぎ』を読んで、一番気に入った虫は、ムラサキシジミというガの一種の虫です。理由は、はねの表はきれいな色をしているのに、うらがわはちゃ色という、じみな色になっていたことにびっくりしたからです。この虫は見たことがないので、いつか見れたらいいです。

〇〇さんとお手紙のやりとりができてとてもたのしかったです。いつも、かわいい絵をかいてくれたり、きれいに色をぬってくれて、ありがとう。いつも〇〇さんからのお手紙がたのしみでしかたありませんでした。4月からは3年生ですね。これからも、みんなとなかよく元気でいてください。今までありがとうございました。

3月10日

□□□□より

サイクル5の理科の本の評価は、サイクル2の基準とほぼ同じ形で行われた。ただ異なるのは、サイクル4と同様に、4点のものが増えたところである。《本についてのコミュニケーション》〈理解〉「〇〇について詳しく、うまくまとめている」が加えられた。〈本についての思考〉は、4点が「自分は、この〇〇についてこう思います」と書いてある場合とした。

評価結果を表24に示す。

表24 サイクル5理科の本の手紙の評価

児童	理解	本についての思考	ペンパルとのつながり	構成	文	語の選択 語彙	表記	平均
A児	3	2	2	3	3	3	3	2.71
B児	3	3	3	3	3	2	3	2.86
C児	2	2	2	2	3	2	2	2.14
D児	3	2	3	3	3	2	2	2.57
E児	2	2	2	2	3	2	2	2.14
F児	2	2	2	2	3	2	3	2.29
G児	3	3	3	3	4	2	2	2.86
H児	4	2	3	2	3	3	3	2.86
I児	3	2	2	3	4	2	3	2.71
J児	4	3	3	3	4	4	2	3.29
K児	3	2	3	3	2	2	2	2.43
L児	2	2	3	3	2	3	2	2.43
平均	2.83	2.25	2.58	2.67	3.08	2.42	2.42	2.61

(7) サイクル5が終わった後

In2Booksはサイクル5で終了である。大学生が卒業してしまうので、急いでサイクル5の手紙に対する返事を書いてもらい届けたところ、児童は自主的にパートナーに手紙を書きたいと求めた。そこで担任の方で、次の表25のような指導をしたという報告があった。児童が書いた手紙例を表26に示す。

手紙は、大学生・院生の半分が卒業する卒業式の謝恩会と、卒業しない3年生の学生は新年度になってから手渡されたが、これらについて大学生・院生が返事を書くことはなかった。

表25 最後の手紙の指導（学級担任の報告より）

最後の手紙

お世話になっております。サイクル5のお返事と写真を送ってくださり、大変ありがとうございました。お返事を読んでから最後のお手紙を書くまでの、子どもたちの様子を報告させていただきます。授業は、以下のような流れで進めました。

1時間目

- ①サイクル5のお返事を読む
- ②サイクル5の本をもう一度読みたい人は、本を読み返す
 - ・お返事の中に、中の名前や何ページに載っているかが書かれていたためか、今回は全員がどちらかの本を読み返していました。
 - ・△△△△さんと××××さんの2人は、2冊の本の「さくいん」を見比べて、両方の本に載っている虫がいないか調べていました。
 - ・授業の終わりの時間になるまで、止めない限り全員がずっと本を読み返していました。
- ③子どもたちから、「もう一度お手紙を書きたい!」という要望が出る
 - ・「書いても、もうお返事は来ないと思うよ。」と伝え、「それでもいいから書きたい!」という声が多く聞かれたので、最後にもう一度だけ、お手紙を書くことになりました。

2時間目

- ④お手紙（本番）を書く
 - ・今回は下書きはせず、いきなり本番を書かせました。封筒と便せんはサイクル5と同じ物を用意しました。型は提示せず、自由に書かせました。
- ⑤担任チェック
 - ・担任が誤字脱字やおかしい言葉遣いが無いかどうかを確認しました。
- ⑥色塗り、封筒作り→完成

今回は型は用意せずに自由に手紙を書かせましたが、子どもたちは大体のお手紙の書き方を習得したようで、すらすらと書くことができていました。今までのパートナー読書の学習で学んだことを自然に活用している姿を見ることができ、最後までお手紙を書かせてみてよかったと思いました。

また、他教科の学習にも活かす場面がありました。生活科の授業で、生まれてから今までの成長の記録をまとめて本にする学習をしました。学習の最後に、家の人から手紙を書いてもらい、それを読んでお返事を書く活動をしました。家の人からの愛情にあふれた手紙を読んだ子どもたちは、それに応えるように、すらすらとお返事を書きました。どの児童も、愛情表現をしたり今までの感謝の気持ちを書いたりして、とても素敵なお手紙を書き上げました。これもパートナー読書の成果だと感じました。

これからも、パートナー読書で学んだことは、様々な場面で子どもたちの見方や感じ方を豊かにし、それを上手く表現することにつながっていくことと思います。貴重な経験をさせていただき、本当にありがとうございました。（中略）

平成29年3月16日 ○○小学校 2年生担任 ××××

表26 最後の児童の手紙

□□さんへ

これでおわるとなると、さみしいですね！（涙を流す顔マーク）ハートを28こ書いてくださってありがとうございます。一番おもしろかった本は、「虫たちのふしぎ」です。りゅうは、虫を近くから見るとかわいいからです。今までありがとうございました。（すまし顔の絵）

3月15日 ○○より

4. 考察

（1）本と指導について

5つのジャンルの本を使用するというで、本は筆者が選択して準備した。複数種類を用意し、学級担任に決定してもらうつもりだったが、担任は児童自身に選択させるという方法をとった。結果として多くの本に児童は触れることができた。全体として、ジャンルに基づいた本を5種類展開していくのは、意味があったようである。なぜなら、子どもたちは、様々なジャンルに意識的に取り組めたとし、中にはあるジャンルについて複数種類の本を扱うことで、ジャンルの概念をより明確に把握することができたと考えられるからである。ジャンルを意識するということであると、今回5ジャンルを扱ったことは意味があると考えられる。なぜなら、最初（サイクル1）で面白かったところを指摘していた児童たちが、それぞれのジャンルに即してどう手紙を書いたらよいか（それはすなわち、どう読んだらよいか）を学ぶことができたと言えるからである。

ただ、小学校2年生ということに限定して考えると、本については次の2点の問題点があった。1点目は伝記についてである。アメリカには、低年齢の児童にも読めるような国の英雄の伝記絵本が多い。これに対し、我が国は低年齢の児童向けの伝記がほとんどない。実際、小学校2年生にも読めるような絵本はほとんど見当たらなかった。何とか比較的平易な本『ライト兄弟』『星のこども』を用意し、学級担任に選択してもらおうと考えた。しかし、担任は実際には2冊とも読み聞かせをし、どちらか好きな方一方を児童に選択させて手紙を書かせた。『ライト兄弟』は、兄弟の比較的幼い時期のことが書いてあり、読みやすいと思ったが、実際に選んだ児童が多かったのは『星のこども』であった。宇宙という概念をとらえるのは児童でなくても難しいと思うが、児童は難しい本であっても挑戦するのだと再認識した。2点目の問題点は、「社会科の本」「理科の本」についてである。これらの言い方は、本来はジャンルではない。より小学生がイメージしやすいようにということで、アメリカではこのようなジャンル名を用いていると考えられる。しかし、我が国では小学校2年生には社会科・理科の科目名がない。このことも文化差であり、一つ問題点となることであろう。

指導の仕方については、筆者の方で明確な指導方針を出すことができなかった。ただ、In2Booksには、教師用の指導書的な雑誌が出ているので、サイクル2及びサイクル3では、その雑誌に書かれていることの要点を学校を訪れた際に学級担任に伝えたつもりである。それでも、サイクル4とサイクル5は全くの任せきりになってしまった。どのようなジャンルをどのように読むように指導することが適切なのか、引き続き検討が必要である。かかった時間も、現実として受け止めるべきか、改善すべき点か悩むところである。学級担任はサイクル1は2時間で行った。しかし、手紙が評価されるということがわかり、こちらからの評価の観点や次回（サイクル2やサイクル3）での指導の要点を知ると、時間がかかるようになっていった。

（2）児童の手紙の評価について

児童の手紙の枚数は、徐々に増えていった。平均枚数は、サイクル3で16枚書いた外れ値の児童を除くと、サイクル1が1.45枚、サイクル2が2.00枚、サイクル3が2.36枚、サイクル4が2.27枚、サイクル5が2.27枚であった。サイクル4とサイクル5は時間がなくて間隔を空けずに書いているので、サイクル3よりも減っているが、安定して2～3枚ずつ書くことができるようになっていった。学級担任はまた、サイクル5が終わった後の報告（表25）において「今回は型を用意せずに自由に手紙を書かせましたが、子どもたちは大体のお手紙の書き方を習得したようで、すらすらと書くことができていました」としている。

それぞれの手紙をIn2Booksのルーブリックで評価することは、一応可能であることが分かった。ただし、単文・重文・複文や、助詞、漢字の表記などは、日本語用に基準を立てる必要があり、それを行えば、ルー

ブリックで評価することは可能である。ループブリックは、どのジャンル（サイクル）でも、どの学年でも同じ1種類を使用する。つまり、学年があがっていくごとに、より高いレベルに到達できているかをはかることができるはずである。しかし、本実践は第2学年の児童のみの参加であったので、継続的な指導が望まれる。

しかし、手紙は1通ごとにループブリックで評価するので、このループブリックでは、せっかくの一連の流れを評価できないということも分かった。前のサイクルの返事にかかれたパートナーの呼びかけを受けて返答を今回のサイクルで書き込んでいるという場合、そのことをうまく評価できなかった。In2Booksのループブリックは1冊1冊の本を読む際の認知的側面に向いているのであって、本の内容に関係しないような非認知的側面（パートナーのおにいさん・おねえさんとお手紙のやりとりができてうれしい気持ちなど）を評価するのは向いていない。しかし、非認知的側面もこのようなパートナー読書には重要なので、非認知的側面を評価していけるような評価方法を開発する必要がある。

5. まとめと今後の課題

本稿では、In2Booksを日本で行った際に、どのような効果や課題があるのかを明らかにしていくことを発表の目的とした。

本を読んで手紙を書くという活動は児童にとって魅力的であることが見て取れた。そして、児童としては少し長い文章を厭わずに書けるようになったという効果があったといえよう。ただし本の選択については、「社会科の本」「理科の本」という2年生にない科目のジャンル名では、どのような本なのかイメージがつかみにくいという問題点があった。また、伝記について、やはり2年生に読めるような伝記が日本であまり出版されていないという問題点が発見された。

本を読むことと手紙を書くことの指導にける時間は、徐々に長くなっていった。これは、主題をどのように指導して手紙に反映させるか、授業者である学級担任の認識が進んだからだと考えられる。やはりIn2Booksは、授業改善や教員研修の意味を含んでいると言える。

手紙の評価については、In2Booksのループブリックでの評価が可能であった。しかし、ループブリックの基準を設定したり、ループブリックで評価したりする活動を通して、私たちが読書の感想を求められた時、「おもしろいところ」を述べたがる傾向があることが分かった。加えて、あるジャンルの主題をとらえるということについて、我々は十分に児童に指導してこなかったのではないかということに思い至った。

結論として、単純に本を読んで話し合うだけでなく、このように手紙を交換することは、パートナー読書の実態を把握するのに有益であると言えることができる。さらに、この活動がどのようなことをもたらすのか考察していきたい。

引用及び参考文献

- 足立幸子（2012a）「中学校現場に適した二人組交流型読書指導法『パートナー読書』の開発」『新潟大学教育学部研究紀要』4(2), 人文・社会科学編, 103-128.
- 足立幸子（2012b）「読書を通じた交流の内容—『パートナー読書』での読者反応と交流—」『国語教育研究（全国大学国語教育学会発表要旨集）』122, 43-46.
- 足立幸子（2015）「読者反応を利用した小集団の読書指導におけるループブリック評価の試み」新潟大学教育学部国語国文学会編『新大国語』37, 17-37.
- 足立幸子（2016）「交流を生かした読書指導—アメリカにおけるIn2Booksの2003年頃の活動を例として—」『新潟大学教育学部研究紀要』9(1), 人文・社会科学編, 1-9.
- Goldfeder, E., Wang, W., & Ross, S. (May, 2003). In2Books teacher survey: qualitative and quantitative synthesis. *Center for Research in Educational Policy*.
- Goldman, S. R. (2004). *Evaluation report: SAT-9 Reading Test achievement levels – District of Colombia Public Schools: In2Books classrooms compared to other DCPS classrooms, 2003-2004 school year*. Chicago: University of Illinois at Chicago Center for Learning, Instruction, and Teacher Education.
- In2Books (2004). The In2Books rubric. *In2books literacy guide 4(2)*.
- In2Books-ePals. (2016). The history of In2Books. In2Books-ePals Website

https://in2books.epals.com/content.aspx?caid=I2BCorp&divid=I2B_History (2016年6月14日閲覧)

Teale, W. H., & Gambrell, L. (2007). Raising urban students' literacy achievement by engaging in authentic, challenging work. *The Reading Teacher* 60(8), 728-739.

Teale, W. H., Zolt, N., Yokota, J., Glasswell, K., & Gambrell, L. B. (2007). Getting children In 2 Books: Engagement in authentic reading, writing, and thinking. *Phi Delta Kappan* 88(7), 498-502